

関係を見える形にすることを通して読む力を育てる学習指導

— 非連続型テキストを用いて文学教材を読む —

教科・領域教育学専攻
言語系コース 国語分野
M07132F
大橋 貴志

1. 研究の目的

本研究の目的は、非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導のあり方について考察することである。題目に使用した「関係を見える形にする」とは、「物語の特色を読み取り、非連続型テキストを活用して読み取り図として表現すること」である。

先行研究を基にして、非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導を実現するためのポイントを導き出し、授業改善のためのポイントとして提案した。それらのポイントが授業改善に有効性をもつものかどうかを、論者自身が実践した単元「自分が読み取ったことを図や表を使ってわかりやすく伝えようーぼくらの『物語ミュージアム』を作ろうー」の考察を通して確認した。

2. 論文の構成

本論文は、次の四章により構成されている。

第一章 非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導に関する基礎理論

第一節 非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導の意義

第二節 非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導に関する授業改善のポイント

第二章 非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導の実際

第一節 「読み取り図」を作成する学習活動を通して読む力を育てる授業

第二節 「読み取り図」を活用して読む力を育成する学習指導の実際

第三節 非連続型テキストを活用する学習指

導の授業のまとめと考察

第三章 児童が作成した多様な非連続型テキストの分類と分析・考察

第一節 児童の作品の分類項目

第二節 着目した視点からの分類

第三節 児童が作成した多様な非連続型テキストの分類と分析のまとめ

第四章 非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導のあり方

第一節 非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導に関する授業改善のポイントの有効性の確認

第二節 今後の課題

3. 論文の概要

第一章

第一章においては、先行研究が提起する非連続型テキストの活用についての課題を明らかにし、本研究の基礎となる理論について考察をおこなった。その考察から、非連続型テキストを活用して読む力を育成する学習指導を実現するための三つのポイントを導き出し、それらを活用して授業改善に結びつけることを提案した。

ポイント1 「非連続型テキスト」の複合的活用

ポイント2 伝え合いの場の設定

ポイント3 学びの振り返り

第二章

第二章においては、三つのポイントを満たす授業実践を通してポイントが本当に授業改善において有効性を持つものかどうかを考察した。

【授業実践の実際と考察】

①読み取り図を作る練習

物語の読み取り図の作成のしかたを学ぶ段階である。授業では非連続型テキストという言葉は使わずに、文章以外にどのような表現方法があるのかを考え、個々が工夫できるようにした。そして表現方法の形式や特徴について伝え合いを行い、より多様な方法を引き出した。

②よい読み取り図の条件を考える

よい読み取り図のポイントを整理し、学びを共有化する段階である。作成した読み取り図をもとに、どのような観点を使って物語を読み、どのような表現方法を活用すればよいかについて考えさせる場を設定した。その成果を伝え合うことによって、学びをクラス内で共有化した。

③読み取り図の作成

第三次では、それまでの学びを踏まえて読み取り図を作成した。ここではいつでも自由に伝え合いができるようにし、お互いのよいところ見つけをすることにした。常に伝え合いによって、読みを深め、読み取り図をよりよいものに高めることができるようにした。

④クラス内や他クラス間での伝え合い

グループ、学級、そして他クラスとの間で伝え合いをした。より多くの他の児童の作品に触れ、またより多くの児童からの意見がもらえる場を保障するという意味をもつ。

⑤学習の振り返りとまとめ

学びの振り返りとして、自分の学びを振り返り、メタ認知していく学習活動をおこなった。

第三章

第三章においては、児童が作成した読み取り図の分類と考察をおこなった。

【児童の作品の分類】

①児童の作品の分類項目

児童が着目した視点から7種類に、さらに、非連続型テキストの形式によって同様に7種類に分類をした（紙幅の都合により、分類に関する考察の一部は、論末資料に掲げた）。

②着目した視点からの分類

児童が着目した視点からの7種類の分類につ

いて分析・考察を行った。読む力の高い児童と読む力の低い児童が、作品のどのような視点に着目したのか、その傾向を明らかにした。

③児童が作成した多様な非連続型テキストの分類と分析のまとめ

読む力によって視点や、表現形式に違いはあるものの、非連続型テキストを活用することは、特色をわかりやすく表現し、読みを深めることについて有効であることを確認した。

第四章

【三つのポイントの有効性—授業改善との関係】

①「非連続型テキスト」の複合的活用

どのような力を持つ児童でも、個々にあった読み取り図を作成することによって、読む力を伸ばすことができていた。読む力が低い児童に高い負荷を負わせるのではなく、個に合わせた学習にも対応した指導を行うことができた。

②伝え合いの場の設定

非連続型テキストを活用した読み取り図の上ではそれぞれの読みが具体的な姿を持っており、それを使って、伝え合いをしていくことは、どのような読む力をもつ児童にとっても大きな学習効果を生むことができた。

③学びの振り返り

学びを振り返ることによって、楽しいだけではなく、その授業に意味づけをすることにつながった。「活動あって学びなし」という状態になることがなかったのは、学びを振り返る学習活動があったからに違いない。

こうした考察により、三つのポイントが授業改善に有効性をもっていることを確認した。

【今後の課題】

今後の課題として、次の三点を掲げた。

- ①「非連続型テキストを活用した授業を年間指導計画の中でどう位置づけるか。
- ②読解力が低い児童に対する手立ての工夫。
- ③他教科との関連を図った指導の必要性。

主任指導教員 堀江 祐爾
指導教員 堀江 祐爾